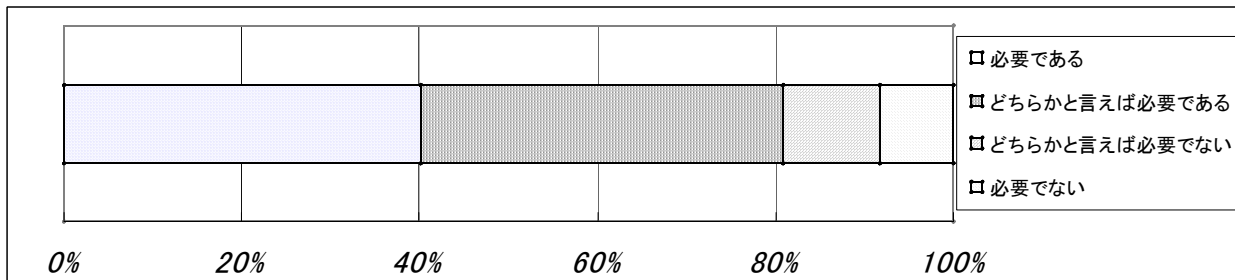


学校間連携について

1 教員の意識と連携の必要性

平成18年度に「キャリア教育の推進に関するアンケート」を県内の小学校24校、中学校16校、高等学校21校の計61校を対象に行った。その37項目あるアンケートの中の「キャリア教育の実施に当たり、小学校・中学校・高等学校の系統的な連携が必要であると思いますか」という質問に対して、81.8%が「必要」と考えていることが分かった（資料1）。その数字の高さから、学校間連携の利点を具体的に考えていくことが必要であることが分かった。

【資料1】



その理由として以下の3点が考えられる。

①小・中・高等学校の一貫した指導内容・方法に取り組むことが、キャリア教育を進める中でとても重要となってくる。小・中学校においては、共通の課題を設定し取り組むことなど、連続した9年間の児童生徒の育ちを見通したキャリア教育を実践するに当たり、小学校で取り組んできたことを知ることができれば、中学校や高等学校で更にレベルの高い実践が行える利点が考えられる。

②キャリア教育においては児童生徒一人一人の目標は異なるため、個に応じた指導の必要性は大きい。今までにその児童生徒が受けてきたキャリア教育の内容を知ることで、その児童生徒のキャリア発達に対する理解を深めることができる。そのため、各教員がその児童生徒の小学校1年時から現在に至るまで、どのような活動を行い、体験を積み、考えを深めてきたかについての情報収集は必要不可欠であると考えられる。

③キャリア教育においては、各校種間で同じ内容の学習を行っているケースがよく見られる。例えば、職場体験学習は、現在多くの中学校や高等学校において実施されていて、その目的や内容について、大きな違いはないようである。中学校や高等学校の教員が職場体験学習の情報交換を行うことで、指導の重複を防止したり、より高い目標を設定したりすることも可能になる。各校種間でキャリア教育の実施内容の情報交換を行うことで、より円滑に、かつ、効果的に指導できるようになると考える。

このような利点があるにもかかわらず、連携ができていない学校がほとんどである。その原因として考えられることは、

連携のよさは分かるが、何をどうすればよいのか分からない
連携しなくても何とかやっていける
連携する時間的なゆとりがない

などである。

次に、その解決策として、連携の具体的な手段と実践例について提案したいと思う。

2 解決策〈具体的な手段と実践例〉

(1) 学習プログラムの活用

キャリア教育は生涯におけるキャリア発達を促すものであることから、小学1年生から高校3年生までの系統立てた学習プログラムの開発とその活用が必要である。昨年度、当研究会で職業観・勤労観を育むことを目的とした学習プログラムを作成した。各校種において教育課程とキャリア形成にかかわる活動を関連付けて、学習プログラムに基づいて指導を進めていくことが連携の第一歩であるとする。小学校での学習プログラムを確実に定着させていけば、中学校では、その次の段階として、学習プログラムに沿って指導をしていけばよいことになるからである。そのため、作成するに当たって、小・中・高等学校の連続性や一貫性に配慮できるとよい。さらに、それぞれの学習プログラムについて、情報交換ができるとより効果的ではあるが、できなくても、その学校での学習プログラムを徹底していくことで連携の基盤がつけられると考える。

(2) カルテ方式の導入

児童生徒のキャリア発達を系統的に促すためには、児童生徒一人一人を理解し、その児童生徒が受けてきた学習領域や内容、培ってきた能力の様子を知ること、効果的な指導をすることができる。そのためには「カルテ」(P.16参照)の活用が有効である。「カルテ」はその児童生徒の様々な情報が記述される。記入には手間が掛かると考えられるが、継続して取り組むことで効果を発揮するので、時間を惜しまずに作成し、活用したい。近隣の小学校が領域や能力について同じ形式で評価することができれば、中学校が利用しやすいと考えられる。

また、キャリア教育の授業で使用したワークシートや各活動における感想文などをポートフォリオとして蓄積されたものを活用することも考えられる。改めて評価したり、時間をかけて記入する手間が省かれるため利用しやすい。ただし、学校ごとに取り組む内容が異なる可能性があるため、どの能力が身に付いているのかについては、多くの資料に目を通す必要があり、かなりの時間を必要とする。

なお、「電子カルテ」(資料2)を活用した先進的な取組をしている学校もあるので、ここに紹介する。

【資料2】

The screenshot displays the E-School Version V0.41 software interface. The main window shows a calendar for December 2005, with the date 12/13 (Tuesday) selected. The interface is divided into several sections:

- Left Panel:** Contains a list of messages and announcements, including one about a school event on 12/13.
- Top Center:** Displays the current date and time: 2005/12/13 (火).
- Center Panel:** Shows administrative data such as '出席状況' (Attendance Status), 'クラス写真' (Class Photos), and '職員会' (Staff Meeting). It also includes a '管理当番' (Management Duty) table for the current date.
- Right Panel:** Features a '行事予定' (Event Schedule) table with columns for date, time, and event name. It lists various school activities and meetings.
- Bottom Panel:** Contains a '未読メール' (Unread Emails) section and a 'あゆみ' (Progress) table with columns for date, time, and activity.

The interface is designed for school administrators to manage daily operations, track events, and monitor student progress.

【例】電子カルテの活用により子供一人一人の6年間の育ちを全職員で促す教育体制の構築

西尾市立西尾小学校では、「児童一人一人の把握，指導，評価にカルテがとても有効である」と考え，教育補助員が開発した，児童の様子等を記録する電子カルテを活用している。

この電子カルテは，高い安全性と事務の効率化を図り，「連絡関係」「児童名簿の管理」「設備備品管理」「成績処理」「会計処理」の校務も含めた総合的な教育支援ソフトウェアである。安全対策については，通常の安全対策の上に，システムソフトとデータを分離しているため，万一システムソフトをインストールしたコンピュータを紛失した場合でもデータ流出のおそれがない。また，事務の効率化については，一つのデータが関係書類のすべてに反映されるようになっているので，例えば，「出席簿」に入力すれば，「本日の欠席状況」「学校日誌」「保健日誌」「個別欠席集計表」「通知表」にもそのデータが反映される。

電子カルテにより，すべての教職員が，日常的教育実践の中で，はっとした『この子』の現象を入力・累積し，その情報を相互に共有・解釈・交流することで，『この子』についての理解の幅が広がり，深さが一層増し，ひいては，『この子』の行動特性が解明できる。この行動特性にかかわる情報を共有し，全職員で実践を積んでいけば，子供一人一人の成長を見守ることができると考えられる。つまり，電子カルテの活用により，子供一人一人の6年間の育ちを全職員で促す教育体制の構築ができると言える。

電子カルテの活用之际，大きくかかわった情報源は，保健室の養護教諭である。電子式「保健・執務日誌」（資料3）に記入する情報が，リアルタイムで職員に公開されるので，保健室の情報を学級担任が容易につかむことができる。また，養護教諭は，電子カルテの活用により保健室以外の情報を入手でき，その情報も含めて児童と接することができる。現在では，養護教諭が中心となり「この子」についての現れを総合的に分析し，作成した資料を基に，全職員で「この子」を理解し支援していくための会議を行っている。

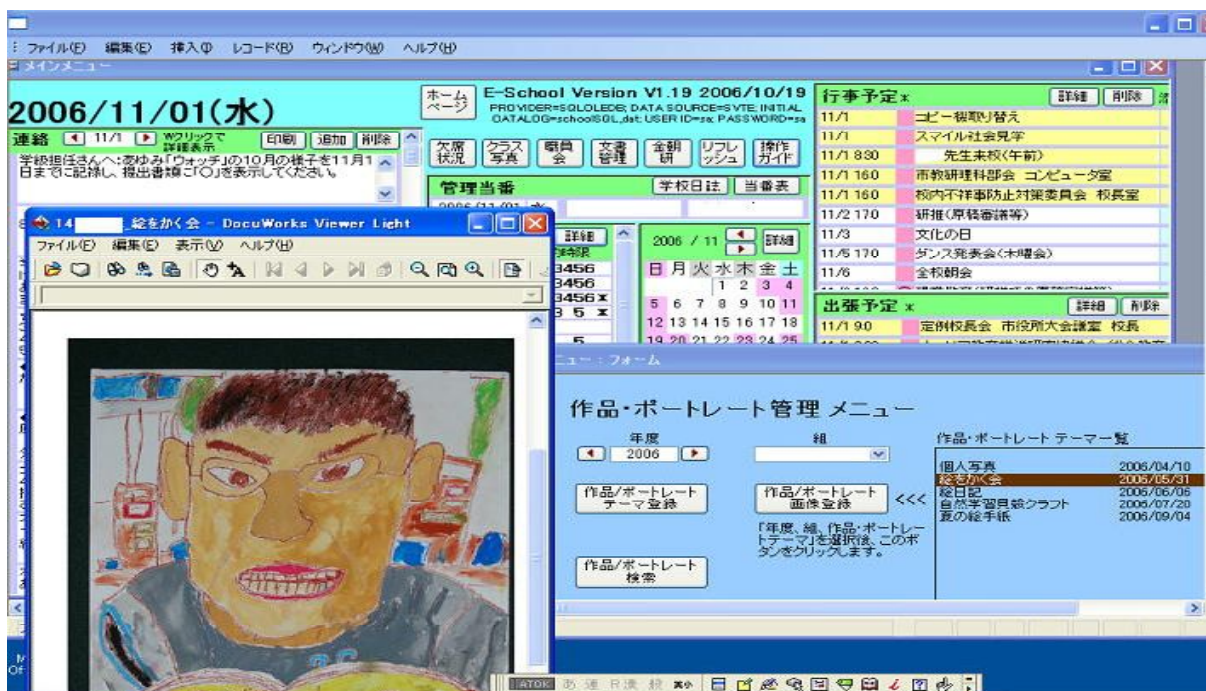
【資料3】

応急処理	男	女	合計
外科	3	2	5
内科	2	1	3

平成18年度からは画像処理ソフトを活用して，画像情報を記録できるようになった。子供一人一人の絵画や作品，作文等を映像データとして保存を始めた（資料4）。これを6年間続けていけば，「この子」の成長を映像データからも読み取ることができる。電子カルテによって，単に職員がリアルタ

イムに情報交換ができるというレベルから、職員同士の情報の交流が生まれ、子供一人一人に応じた支援が全職員でできるという高いレベルの教員集団となりつつある。

【資料4】



(3) 情報交換会及び授業参観

高等学校での授業公開に参加することにより、その学校の指導方針や雰囲気、生徒の生の姿を見ることができる。特に、他校種での授業公開では、日ごろかかわりの少ない異校種間の共通理解を進めることができ、大変貴重な行事であると言える。

田原市立福江中学校では、近隣の高等学校で授業公開等が開催される時は極力参加するようにしている。今年度も地元県立高等学校の普通科福祉実践コースの授業公開と情報交換が行われ、2名の教員が参加した。中学校の教員は福祉実践コースの内容をパンフレットや学校説明会などで知識として持っているが、実際にその授業や生徒の様子を見る機会はほとんどないため、福祉実践コースの特徴をイメージとしてとらえることがなかなかできない。そのような状況の中で、授業公開に参加することは、実際に授業を見ることができ大変有意義な機会である。

授業参観では、3年生のクラスを「調理」と「基礎介護」の二つに分けて授業が公開された。

「調理」…3年で履修し、日常食に対応したメニュー作り、調理の基礎知識を学び、調理技術を習得することを目的としている。

「基礎介護」…2・3年で履修し、介護の在り方や心構えなどを学ぶことを目的としている。

どちらの授業も男女共に真剣に調理や介護に取り組む姿が見られた。福江中学校の卒業生も何人か活動しており、真剣な態度で実習に取り組んでおり、目的意識をもって高校生活を送っているその姿に、卒業後の成長を実感することができた。

情報交換の時間では、福祉実践コースにおける目的、学習内容、取得可能な資格、進路の実際などが情報提供された。



「調理」に参観する中学校教諭

目的 …「高齢化社会における福祉実践の具体的な方法を学習するとともに、人を思いやる心や精神を育成すること」

学習内容…「家庭介護・福祉」「基礎介護」「被服製作」「社会福祉実習」「福祉情報処理」「調理」

資格 …「訪問介護員2級」「訪問介護員3級」

進路 …「福祉関連施設へ就職」「福祉関係の専門学校」「福祉関係の短大・大学」

この他にも、福祉実践コースに進学する生徒の適性や心構えを聞くことができた。また、現在の生徒の実態や高校の様子をよりよく知ることもできた。

参加した教員は以下のような感想をもった。

福祉実践コースは大変実践的な学習をしており、福祉への気持ちを強くもった生徒を進学させることが必要だと感じた。今日の参観授業で、高校生の真剣な姿を見て、中学生時代から自分の生き方を考えられる生徒を育てていきたい。

(4) 講師を招いての学習会

キャリア教育実施上の課題の一つに、教員のキャリア教育に対する意識の低さが挙げられる。また、校種によっても意識の差が出ている。そこで、教員を対象とする研修会を様々な場において実施していく必要がある。キャリア教育に造詣ぞうけいの深い講師を招いての学習会は研修の第一歩として効果的である。ここでは、「福江中学校区小中交流事業」で行われたキャリア教育の研修会についてその概略を述べる。

福江中学校区には一つの中学校と四つの小学校がある。その研修では福江中学校に四つの小学校の教員が集まり、中学校の授業参観とキャリア教育に関する講演会を行った。

授業参観では、1年生3クラスは学級活動「命の授業」、2年生は選択教科の授業、3年生は必修教科の授業を公開し、様々な教科の多様な形態の授業を観察できた。

講演会では、愛知教育大学教授神谷孝男先生の「小中連携によるキャリア教育・進路指導を」と題して講演があった。内容については以下のとおり。



「命の授業」を参観する小学校教諭

—— 「キャリア教育の基本的な考え方」神谷先生の講演より ——

青少年が生涯にわたって「よりよい生き方」を実現していくためには「健康と体力」が必要不可欠である。キャリア教育は、健康の保持・増進と体力の向上を図ることを目指して、家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、学校ごとに目標を設定して、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。

小学校段階におけるキャリア教育は、児童一人一人にキャリア教育の中で育てる資質や能力の土台づくりを目指すものである。「健康・体力の増進と保持」「基本的な生活習慣」「良好な人間関係」などを考えていくことが必要である。その上で、自分の言葉で夢（「こんな人間になりたい」「こんなことをしたい」「こんな生活をしたい」）を語れる子供を育てていきたい。

参加者からは「小学校段階からキャリア教育のねらいを考えながら授業に取り組んでいくことが大切であると知った」「しつけや体力づくりなどをしっかりやるのがキャリア教育のねらいを達成す

ることにつながるとは知らなかった」「早寝・早起き・朝ごはんを小学校3年生からでもやっていき、中学校のキャリア教育につなげたい」などの声が聞かれた。

(5) 学校間交流

ア 小学校－中学校の連携

三好町立三吉小学校では「先輩の話を聞く会」を開催している。この会の目的は、それによって、不安や心配が取り除かれ、希望をもって中学校へ進学することをねらいとしている。小学生が去年まで一緒に小学校生活を送っていた現中学一年生の話を聞くことは、説得力があり印象に残ると思われる。

あらかじめ、中学校へ「先輩の話を聞く会」の趣旨と日程などを知らせ、来てもらう生徒の選定をお願いする。2週間前には、子供からの質問をまとめたものを送り、当日話してもらうことを決めておいてもらう。話題は、主に小学校と中学校の生活の違い、部活動について、テストについて、授業についてなどが中心となり、「(自分の入りたい部活名を挙げて)初めてでもできるのか」「英語の授業について、習っていないけどついていけるのか」



「先輩の話を聞く会」の様子

「怖い先輩がいると聞いているが、実際はどうか」など具体的なことをたくさん聞くことができた。事後の指導として、参加してもらった中学校の生徒あてにお礼の手紙を書いた。

初めての試みであったが、子供達は「中学校へ行くのが心配だったけど、今日の話聞いて少し心配が減った」「入りたい部活を決めていなかったけど、入学してから体験できる日があることを知って安心した」など、先輩から話を聞くことができたことでとても安心できたようである。また、保護者も何人か参加してくださり「初めての子供なので、とても心配していましたが、今日の話が聞いて少しだけ安心した」等と感想を述べていた。

全体としては、心配を取り除けるといふ大きな成果があったので、今後も継続して行い、多くの子供に中学校生活に希望をもってほしいと考えている。

イ 中学校－高等学校の連携

学校間交流の中では、中学校と高等学校の交流は比較的活発に行われていると言える。中学生を対象にした高等学校の体験入学や学校説明会は、数多く行われている。また、中学校に卒業生を招いて、高等学校の情報や進学に必要な心構えなどを聞く会もよく行われている。

田原市立福江中学校では、夏休みを利用して高校の教員と現役の高校生を招き、渥美文化会館で中学3年生と保護者を対象に「進路学習会」を開催している。話をしてもらう高校は以下の5校である。

福江高校（普通科・福祉実践コース） 成章高校（普通科・商業科・生活文化科）
渥美農業高校（農業科・施設園芸科・生活科学科） 時習館高校（普通科）
豊橋南高校（普通科・生活デザイン科）

進路学習会は2部構成となっており、1部では全体で「講話会」を、2部では各高校各学科の代表者1名から3名が分科会形式で「先輩と語る会」を行う。

1部では、「高校生の学習と生活・そして高校進学までに付けておきたい能力」について話を聞いて

た。この際、講話を行う教員は、高校の説明にならないように、高校教育が目指していることや、今（中3の夏から来春）すべきことを中心に話した。次に近隣の各高校から代表となる生徒1名ずつが高校の紹介を行い、校風や学科の特色、部活動などを概括的に発表した。

2部では10分科会に分かれ、高校生がより詳しい学科の特色や現役高校生ならではの生の情報を伝えた。分科会は前半と後半の2回設定し、一人で2分科会に参加できるようにし、希望する保護者の参加も認めた。中学生からは、時間割、学費、校則、校訓、部活動の練習内容などから、高校に入っ**て**びっくりしたこと、困ったこと、うれしかったこと、受験生としての心構えなど積極的に質問がなされ、どの高校生も自分の知る範囲で一生懸命答えていた。

高校生にとっては自分の学校のよさを見直す場となる。発表に当たっては、分かりやすく話す、伝える力が必要となる。あらかじめ話すことを決め、準備を万全にして臨む説明の場と、質問を受け臨機応変に分かりやすく答える場がある。このように参加した高校生にとって人間関係形成能力や情報収集能力を伸ばす場となった。

この会の後、次のような声が聞かれた。

「高校生にしか分からないような細かい情報まで聞けて参考になった。希望校に入りたい気持ちが強くなった」(中3男)

「緊張したけど、分かりやすく礼儀正しい言葉で話せた。高校のことも再認識できた」(高3男)

「中学生も高校生も真剣に会に参加していた。高校の先生から具体的な話が聞けてよかった」

(保護者)

ウ 小学校－高等学校の連携（その1）

県立渥美農業高等学校では「渥農ふれあいアグリ体験講座」を開催している。この講座は平成18年6月から始まった、高校生が小学校・幼稚園・保育園の児童や園児を対象に行う農業体験講座である。内容は、うね作りや種芋の植え付け等のサツマイモ栽培、動物との触れ合い体験、花苗の植え付け体験などである。



サツマイモ掘り

これらの活動は、高校生が小学生や保育園児らに農業関係の作業を教えることを基本としている。高校生は自分たちが学習したことを咀嚼し、小学生などに分かりやすい言葉で、責任をもって農業の基本的な事柄を教えて

いく。小学生にとっては、普段なじみの少ない農作業や家畜との触れ合いを体験できる。ここでは、高校生には自己有用感を、小学生には農業をじかに感じられるという効果がある。

この事業を通して、以下のような成果があったと考えられる。

小学校

- ・農村地帯の学校でありながら児童の農業体験は不足している中で、地元の産業に目を向けるきっかけとなった。
- ・高校生との触れ合い、特に会話を通してコミュニケーション能力を高めることができた。
- ・「農業高校に進学したい」など将来の進路に対する考えが芽生え始めた。

高等学校

- ・異世代との交流を通して、社会的なマナーやルール、他人を理解・配慮する態度が身に付くとともに、コミュニケーション能力が養成され、精神面の成長及び学習意欲の高揚が促された。
- ・体験学習や交流を通し、幼稚園及び小学校におけるキャリア教育の推進に役立てた。

エ 小学校－高等学校の連携（その2）

県立鶴城丘高等学校では、昨年度、西尾商工会議所の創立50周年に先立ち開催された産業活性化展において、3年生が中心となって、サッカーロボットの製作を通して、参加した小学生にもものづくりの楽しさを伝えた。

また、地域の小学生が高等学校を訪問して、芋掘り体験や学校で飼育している動物の絵を描いたり、高校生が小学校に行き、そこで飼育されている羊などの動物の世話の仕方などを教えたりすることもある。



「サッカーロボット製作」の様子

(6) 学校のホームページでの情報公開

現在、多くの学校でホームページが開設され、教育目標や学校行事、特色ある取組などについて様々な形で公開されている。キャリア教育のように校種間の連携が不可欠な内容については積極的にホームページに掲載することが望ましい。校種を超えてキャリア教育の取組を知るにはホームページの活用は有効である。近隣の学校が行っているキャリア教育の取組や、同じ校種の学校がどのような取組をしているのかを知ることで、自分たちの活動の幅を広げたり、内容を深めることができる。そのためには、各学校が自校のホームページに【キャリア教育】のコーナーを設けて、キャリア教育についての情報を公開することから始めていただきたい。

- | | |
|--------------|---|
| ・三好町立三吉小学校 | http://www.hm.aitai.ne.jp/^miyoshi |
| ・田原市立福江中学校 | http://www.city.tahara.aichi.jp/school/fukue-j |
| ・愛知県立鶴城丘高等学校 | http://www.kakujogaoka-h.aichi-c.ed.jp |

3 まとめ

以上具体的な連携について述べてきた。

それぞれの学校でキャリア教育を推進する際、より効果的な指導をしたいとだれもが考えるであろう。その出発点は学校間連携にあると思われる。学校間連携は、まず、お互いの学校について知ることから始まると考えられる。それぞれの学校で取り組んでいること、重点的に指導していることなどを知ることが第一歩である。

今後できるだけ多くの学校がキャリア教育に積極的に取り組み、具体的な実践例に関する情報や資料を発信したり、交換したりすることによって、児童生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けることを期待している。

キャリアカルテ 名前【 】

領域	能力	小学校 1年 組 番	小学校 2年 組 番	小学校 3年 組 番	小学校 4年 組 番	小学校 5年 組 番	小学校 6年 組 番	中学校 1年 組 番	中学校 2年 組 番	中学校 3年 組 番
人間関係形成	【自他の理解能力】									
	【コミュニケーション能力】									
情報活用能力	【情報収集・探索能力】									
	【職業理解能力】									
将来設計能力	【役割把握・認識能力】									
	【計画実行能力】									
意志決定能力	【選択能力】									
	【課題解決能力】									
	・キャリア教育に関する取組									
	備考									

・進んであいさつができる。
 ・自分の考えをみんなの前で話すことが苦手。
 など、各観点で優れているもの、苦手として
 いることが顕著なものについて記述する。すべ
 ての観点を埋める必要はない。また、空欄は普通
 に「できる」ことを示すものとする。

・給食のおばさんに感謝する会(生活科)
 ・はきはきあいさつ(国語)
 ・係決め(学活)
 など具体的に取り組んだことについて、主だっ
 たものを記述する。